

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛60頭	【家族経営】
1 想定地域	北海道(道東・道北地域)	
2 経営規模	経産牛60頭 (50頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻 ②その他:祖父母、子供2人 総飼養頭数 89頭 ①成畜 66頭 ②ほ育・育成牛 23頭 飼料畑 69ha (うち借地26ha) 生乳出荷量 492トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	繋ぎ飼い・パイプライン方式 分離給与方式、集約放牧 ふん尿分離によるたい肥化・液肥化、バーククリーナーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	75% (粗飼料給与率 75%) ①生産 チモシー主体 (チモシー62ha(放牧地を含む)、トウモロコシ7ha) ②利用 サイレージ、放牧(52ha:150日間) 69ha (69ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	繋ぎ牛舎510㎡(既設)、乾乳・育成舎163㎡、バーククリーナー パイプラインミルカー、バルククーラー(2,000ℓ)、トラクター(60PS)、 フロントローダー(25PS) 飼料タンク(FRP5t×1) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,200kg ②更新年次 5.5産 生乳1kg当たり 52円 経産牛1頭当たり 71時間	<現状(参考)> <北海道平均 7,730kg> <北海道平均 4.2産> <北海道平均 66円> <北海道平均 88時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 4,890時間 <北海道平均 7,394時間> ①主たる従事者 2,000時間×1人 ②補助的従事者 600時間×1人 ③雇用労働者 2,290時間(ヘルパー420時間) ①飼養管理 4,240時間(たい肥化130時間) ②飼料生産 660時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	3,780万円 (生乳74円/kg×492トン、子牛160万円) 3,020万円 (内訳) ①飼料費 1,290万円 ②建物・農機具費 370万円 ③人件費 710万円(補助的従事者を含む) 860万円 <北海道平均 1,100万円> 770万円	
10 その他 (経営の特徴等)	・放牧を最大限活用する(150日間)ことにより、コストと労働の軽減を図る 労働時間(飼料調理・給与、敷料搬入・搬出等)の低減 飼料費の低減(粗飼料自給率の向上) 更新産次の延長	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛80頭	【家族経営】
1 想定地域	北海道	
2 経営規模	経産牛80頭（50頭からの規模拡大）	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻、後継者 ②その他:祖父母、子供1人 総飼養頭数 121頭 ①成畜 88頭 ②ほ育・育成牛 33頭 飼料畑 64ha（うち借地21ha） 生乳出荷量 688トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	繋ぎ飼い・パイプライン方式 TMR(混合給与)方式 ふん尿分離によるたい肥化・液肥化、バーククリーナーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	70%（粗飼料給与率 70%） ①生産 混播牧草主体（混播牧草51ha、トウモロコシ13ha） ②利用 サイレージ 64ha (64ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	繋ぎ牛舎683㎡(既設)、乾乳・育成舎203㎡、バーククリーナー パイプラインミルク、バルククーラー(2,500ℓ)、トラクター(56PS)、 フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(定置式) 飼料タンク(FRP3t×2) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,600kg ②更新年次 5.0産 生乳1kg当たり 51円 経産牛1頭当たり 66時間	<現状(参考)> <北海道平均 7,730kg> <北海道平均 4.2産> <北海道平均 66円> <北海道平均 88時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 6,800時間 <北海道平均 7,394時間> ①主たる従事者 2,000時間×1人 ②補助的従事者 1,200時間×1人 ③雇用労働者 3,600時間(ヘルパー520時間、コントラクター600時間) ①飼養管理 5,300時間(たい肥化260時間) ②飼料生産 1,500時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	5,280万円（生乳74円/kg×688トン、子牛220万円） 4,490万円 (内訳) ①飼料費 1,720万円 ②建物・農機具費 240万円 ③人件費 1,350万円(補助的従事者を含む) 980万円 <北海道平均 1,100万円> 790万円	
10 その他 (経営の特徴等)	・現状の管理方式(繋ぎ飼い・パイプライン方式)と27年度の平均飼養規模において、生産・経営管理技術の高度化を図る ・高い乳量と更新産次の延長	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛120頭	【家族経営】
1 想定地域	北海道	
2 経営規模	経産牛120頭 (50頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻、後継者 ②その他:祖父母、子供1人 総飼養頭数 187頭 ①成畜 132頭 ②ほ育・育成牛 55頭 飼料畑 89ha (うち借地46ha) 生乳出荷量 984トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	フリーストール・ミルクパーラー方式 TMR(混合給与)方式 スラリーによるふん尿処理、スクレーパーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	70% (粗飼料給与率 70%) ①生産 混播牧草主体 (混播牧草71ha、トウモロコシ18ha) ②利用 サイレージ 89ha (89ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	フリーストール牛舎1, 497㎡(新設)、ミルクパーラー舎268㎡(新設) 乾乳・育成舎435㎡(既設) ミルカー、バルククーラー(3,000ℓ)、トラクター(100PS) フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(牽引式)、ほ乳ロボット 飼料タンク(FRP5t×2) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8, 200kg ②更新年次 4. 5産 生乳1kg当たり 54円 経産牛1頭当たり 43時間	<現状(参考)> <北海道平均 7, 730kg> <北海道平均 4. 2産> <北海道平均 66円> <北海道平均 88時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 6, 960時間 ①主たる従事者 2, 000時間×1人 ②補助的従事者 1, 200時間×1人 ③雇用労働者 3, 760時間(ヘルパー510時間、コントラクター730時間) ①飼養管理 5, 140時間(たい肥化0時間) ②飼料生産 1, 810時間	<北海道平均 7, 394時間>
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	7, 570万円 (生乳74円/kg×984トン、子牛330万円) 6, 740万円 (内訳) ①飼料費 2, 560万円 ②建物・農機具費 1, 440万円 ③人件費 1, 410万円(補助的従事者を含む) 1, 020万円 830万円	<北海道平均 1, 100万円>
10 その他 (経営の特徴等)	・フリーストール・ミルクパーラー、TMR、ほ乳ロボットの導入等生産技術の高度化により規模拡大を図る。 ・施設・機械費は高いが、効率的な飼養管理で労働時間・生産コストの低減を行う。	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛250頭	【法人経営】
1 想定地域	北海道(十勝地域)	
2 経営規模	経産牛250頭 (50頭から規模拡大した3戸の協業法人)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	1戸当たり①従事者: 本人、妻、後継者 ②その他: 祖父母、子供1人 総飼養頭数 405頭 ①成畜 276頭 ②ほ育・育成牛 129頭 飼料畑 171ha (うち借地128ha) 生乳出荷量 2,050トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	フリーストール・ミルクパーラー方式 TMR(混合給与)方式 スラリーによるふん尿処理、スクレーパーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	70% (粗飼料給与率 70%) ①生産 混播牧草、トウモロコシ (混播牧草120ha、トウモロコシ51ha) ②利用 サイレージ 171ha (171ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	フリーストール牛舎3, 117㎡(新設)、ミルクパーラー舎687㎡(新設) 乾乳・育成舎907㎡(既設) ミルクカー、バルククーラー(10,000ℓ)、トラクター(100PS) フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(牽引式)、ほ乳ロボット 飼料タンク(FRP5t×4) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,200kg ②更新年次 4.0産 生乳1kg当たり 52円 経産牛1頭当たり 32時間	<現状(参考)> <北海道平均 7,730kg> <北海道平均 4.2産> <北海道平均 66円> <北海道平均 88時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 11,780時間 ①主たる従事者 2,000時間×3人 ②補助的従事者 600時間×3人 ③雇用労働者 3,980時間 ①飼養管理 8,080時間(たい肥化0時間) ②飼料生産 3,710時間	<北海道平均 7,394時間>
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	15,760万円 (生乳74円/kg×2,050トン、子牛680万円) 13,060万円 (内訳) ①飼料費 5,450万円 ②建物・農機具費 2,970万円 ③人件費 1,790万円(補助的従事者を含む) 2,990万円 900万円	<北海道平均 1,100万円>
10 その他 (経営の特徴等)	・3戸協業により生産性の向上、経営の合理化、労働の軽減(休日の確保)を図る。 ・コントラクターは利用せず、雇用を利用。	

(注) 現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛40頭	【家族経営】
1 想定地域	都府県の寒冷地(北関東・東北の中山間地域)	
2 経営規模	経産牛40頭 (30頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻 ②その他:祖父母、子供2人 総飼養頭数 61頭 ①成畜 43頭 ②ほ育・育成牛 18頭 飼料畑 18ha (うち借地15ha) 生乳出荷量 336トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	繋ぎ飼い・パイプライン方式 分離給与方式 ふん尿分離によるたい肥化・液肥化、バーククリーナーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	45% (粗飼料給与率 50%) ①生産 混播牧草、トウモロコシ (混播牧草13ha、トウモロコシ6ha) ②利用 サイレージ 18ha (18ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	繋ぎ牛舎346㎡(既設)、乾乳・育成舎84㎡、バーククリーナー パイプラインミルク、バルククーラー(1,500ℓ)、トラクター(56PS)、 フロントローダー(25PS) 飼料タンク(FRP3t×1) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,400kg ②更新年次 4.5産 生乳1kg当たり 67円 経産牛1頭当たり 104時間	<現状(参考)> <都府県平均 7,510kg> <都府県平均 4.1産> <都府県平均 82円> <都府県平均 121時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 5,640時間 <都府県平均 5,181時間> ①主たる従事者 2,000時間×1人 ②補助的従事者 1,200時間×1人 ③雇用労働者 2,440時間(うちヘルパー410時間、コントラクター590時間) ①飼養管理 4,150時間(たい肥化130時間) ②飼料生産 1,480時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	3,100万円 (生乳89円/kg×336トン、子牛110万円) 2,510万円 (内訳) ①飼料費 1,050万円 ②建物・農機具費 120万円 ③人件費 830万円(補助的従事者を含む) 790万円 <都府県平均 660万円> 590万円	
10 その他 (経営の特徴等)	・現状の管理方式(繋ぎ飼い・パイプライン方式)と27年度の平均飼養規模において、生産・経営管理技術の高度化を図る。 ・高い乳量と更新産次の延長	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛80頭	【家族経営】
1 想定地域	都府県の暖地(九州(主に熊本県))	
2 経営規模	経産牛80頭 (30頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻、後継者 ②その他:祖父母、子供1人 総飼養頭数 127頭 ①成畜 86頭 ②ほ育・育成牛 41頭 飼料畑 14ha (うち借地11ha) 生乳出荷量 656トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	繋ぎ飼い・パイプライン方式 TMR(混合給与)方式 ふん尿分離によるたい肥化・液肥化、バークリーナーによる搬出	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	45% (粗飼料給与率 50%) WCS購入(5%) ①生産 トウモロコシ、イタリアン (トウモロコシ14ha、イタリアン14ha) ②利用 サイレージ 14ha (27ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	繋ぎ牛舎692㎡(既設)、乾乳・育成舎168㎡、バークリーナー パイプラインミルク、バルククーラー(2,500ℓ)、トラクター(56PS)、 フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(定置式) 飼料タンク(FRP3t×2) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,200kg ②更新年次 4.0産 生乳1kg当たり 64円 経産牛1頭当たり 63時間	<現状(参考)> <都府県平均 7,510kg> <都府県平均 4.1産> <都府県平均 82円> <都府県平均 121時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 6,300時間 <都府県平均 5,181時間> ①主たる従事者 2,000時間×1人 ②補助的従事者 600時間×1人 ③雇用労働者 3,700時間(うちヘルパー500時間、コントラクター510時間) ①飼養管理 5,020時間(たい肥化270時間) ②飼料生産 1,280時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	6,060万円 (生乳89円/kg×656トン、子牛220万円) 5,160万円 (内訳) ①飼料費 2,170万円 ②建物・農機具費 670万円 ③人件費 1,370万円(補助的従事者を含む) 1,000万円 <都府県平均 660万円> 910万円	
10 その他 (経営の特徴等)	・現状の管理方式(繋ぎ飼い・パイプライン方式)で規模拡大を行い、生産・経営管理技術の高度化を図る。 ・耕畜連携により、WCSの活用、たい肥の有効利用を図る。	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛120頭	【家族経営】
1 想定地域	都府県の寒冷地(北関東・東北)	
2 経営規模	経産牛120頭 (30頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻、後継者 ②その他:祖父母、子供1人 総飼養頭数 159頭 ①成畜 129頭 ②ほ育・育成牛 31頭 飼料畑 43ha (うち借地40ha) 生乳出荷量 960トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	フリーバーン・ミルクングパーラー方式 TMR(混合給与)方式 ふん尿混合によるたい肥化	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	40% (粗飼料給与率 50%) ①生産 混播牧草、トウモロコシ (混播牧草30ha、トウモロコシ13ha) ②利用 サイレージ 43ha (43ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	フリーバーン牛舎1, 516㎡(新設)、ミルクングパーラー舎268㎡(新設) 乾乳・育成舎361㎡(既設) ミルカー、バルククーラー(3,000ℓ)、トラクター(60PS) フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(牽引式)、ほ乳ロボット 飼料タンク(FRP5t×2) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,000kg ②更新年次 4.0産 生乳1kg当たり 63円 経産牛1頭当たり 60時間	<現状(参考)> <都府県平均 7,510kg> <都府県平均 4.1産> <都府県平均 82円> <都府県平均 121時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 8,380時間 <都府県平均 5,181時間> ①主たる従事者 2,000時間×1人 ②補助的従事者 600時間×1人 ③雇用労働者 5,780時間(うちヘルパー710時間、コントラクター490時間) ①飼養管理 7,160時間(たい肥化420時間) ②飼料生産 1,220時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	8,880万円 (生乳89円/kg×960トン、子牛330万円) 7,830万円 (内訳) ①飼料費 2,920万円 ②建物・農機具費 1,030万円 ③人件費 2,060万円(補助的従事者を含む) 1,150万円 <都府県平均 660万円> 1,050万円	
10 その他 (経営の特徴等)	・フリーバーン・ミルクングパーラー、ほ乳ロボットの導入等生産技術の高度化により規模拡大を図る。 ・耕畜連携により粗飼料を確保するとともに、たい肥処理を行う。	

(注)現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費

## 平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	酪農 経産牛200頭	【法人経営】
1 想定地域	都府県の暖地(南関東以西)	
2 経営規模	経産牛200頭 (30頭から規模拡大した3戸の協業法人)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	1戸当たり①従事者: 本人、妻、後継者 ②その他: 祖父母、子供1人 総飼養頭数 266頭 ①成畜 214頭 ②ほ育・育成牛 52頭 飼料畑 25ha (うち借地22ha) 生乳出荷量 1,600トン(実搾乳量)	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	フリーバーン・ミルクングパーラー方式 TMR(混合給与)方式 ふん尿混合によるたい肥化	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	35% (粗飼料給与率 50%) ①生産 トウモロコシ、イタリアン (トウモロコシ25ha、イタリアン25ha) ②利用 サイレージ 25ha (50ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	フリーバーン牛舎2,526㎡(新設)、ミルクングパーラー舎598㎡(新設) 乾乳・育成舎600㎡(既設) ミルクカー、バルククーラー(8,000ℓ)、トラクター(60PS) フロントローダー(25PS)、TMRミキサー(牽引式)、ほ乳ロボット 飼料タンク(FRP7t×2) パソコンを利用した個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①経産牛1頭当たり乳量 8,000kg ②更新年次 4.0産 生乳1kg当たり 62円 経産牛1頭当たり 55時間	<現状(参考)> <都府県平均 7,510kg> <都府県平均 4.1産> <都府県平均 82円> <都府県平均 121時間>
8 労働時間 (1) 総労働時間 (2) 労働構成別 (3) 作業体系別	総労働時間 13,300時間 ①主たる従事者 2,000時間×3人 ②補助的従事者 600時間×3人 ③雇用労働者 5,500時間 ①飼養管理 10,970時間(たい肥化690時間) ②飼料生産 2,330時間	<都府県平均 5,181時間>
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得(主+補) (4) 主たる従事者の所得	14,800万円 (生乳89円/kg×1,600トン、子牛540万円) 11,910万円 (内訳) ①飼料費 4,660万円 ②建物・農機具費 1,780万円 ③人件費 2,620万円(補助的従事者を含む) 3,180万円 970万円	<都府県平均 660万円>
10 その他 (経営の特徴等)	・3戸協業により生産性の向上、経営の合理化、労働の軽減(休日の確保)を図る。 ・コントラクターは利用せず、雇用を利用。 ・耕畜連携により粗飼料を確保するとともに、たい肥処理を行う。	

(注) 現状値は、乳量は牛乳乳製品統計、更新産次は全国酪農基礎調査(H13)、その他は牛乳生産費